

平成 30 年度 第 2 回 海老名市総合教育会議 次第

日時：平成 30 年 9 月 8 日（土） 10：00～

場所：上今泉コミュニティセンター

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

- (1) 教育大綱について
- (2) 学校施設再整備計画について
- (3) 東柏ヶ谷小学校児童会（3名）から学校生活に関する提案について
- (4) その他

4 閉会

**平成30年度
第2回海老名市総合教育会議**

日 時:平成30年9月8日(土)10:00~
場 所:上今泉コミュニティセンター

教育大綱について

「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名

わたしたちは「ひびきあう教育」の理念のもとに

●子どもたちの「しあわせ」

●家庭・学校・地域の「しあわせ」をめざします

そのために海老名市として

子どもと大人が
ともに成長する社会

子どもたちの
今と将来の
しあわせのための
教育

家庭・学校
地域のための
よりよい環境づくり

に取り組みます

教育施策の3つの柱

子どもと大人がともに学ぶ
生涯学習の充実

子ども・学校支援事業の実践
図書館・文化財の積極的な活用
学校を拠点とした生涯学習社会と
地域コミュニティの再構築

「えびなっ子」しあわせ
プランの推進

「学力」「集団力」「健康安全力」を
身につける教育実践
小中の9年間を見通した教育
システムの実施
海老名型コミュニティスクール
「おらが学校」の展開

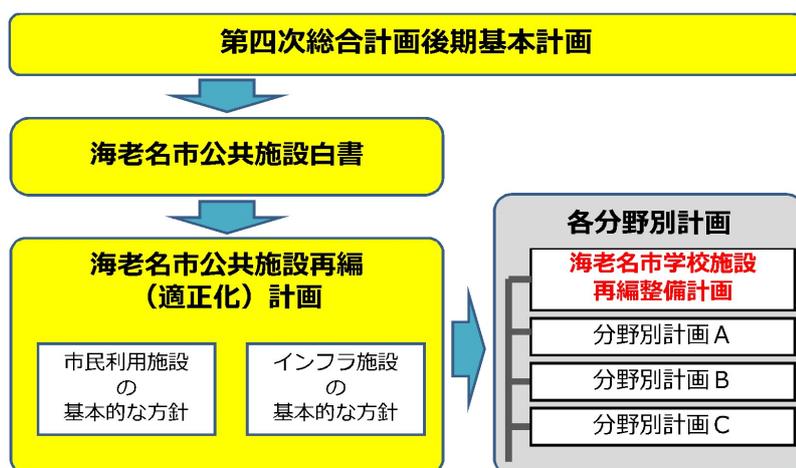
安全安心な環境と
新たな学校施設への取組

安全安心な子育て環境の整備
義務教育に係る公費負担の
あり方の検討
地域住民が集う学校施設の
あり方の検討

家庭・学校・地域・行政の力を結集して

海老名市学校施設再整備計画(案)について

海老名市学校施設再整備計画の位置づけ



基本的な考え方

「持続可能」な「夢」のある計画

本計画は、学校施設の再整備を行うことで、本市の「持続可能」な行政運営を可能とするとともに、現在及び未来のえびなの子どもたちに「夢」を与えることができる計画を策定します。

【短期計画（10年）】

学校施設（校舎、屋外運動場）の整備を計画的に実施することで、「良好な環境」を維持すると共に「施設の長寿命化」を進め、整備コストの縮減を検討します。

【中長期（20年）・超長期（40年）計画】

- 児童・生徒数の推移や他の公共施設の機能を踏まえ、「小中学校及び他の公共施設の再編」、「小中一貫教育の推進」及び「施設の効率化」を検討します。
- 従前の学校施設の枠にとらわれず、児童・生徒はもちろんのこと、地域住民の利用を考慮し、学校を地域コミュニティの核とすべく、地域に愛される施設となるよう「多機能化」、「複合化」の検討をします。

計画期間

- 平成31年度（2019）～平成70年（2058）年度までの40年間

対象施設

- 市立学校19校（小学校13校、中学校6校）を対象とします。
対象棟数は77棟、延床面積合計約11.5万㎡です。

見直しの時期

- 児童生徒数の推移などを踏まえ、概ね10年ごとに見直しを図ります。

現状と課題

1 学校施設の老朽化状況

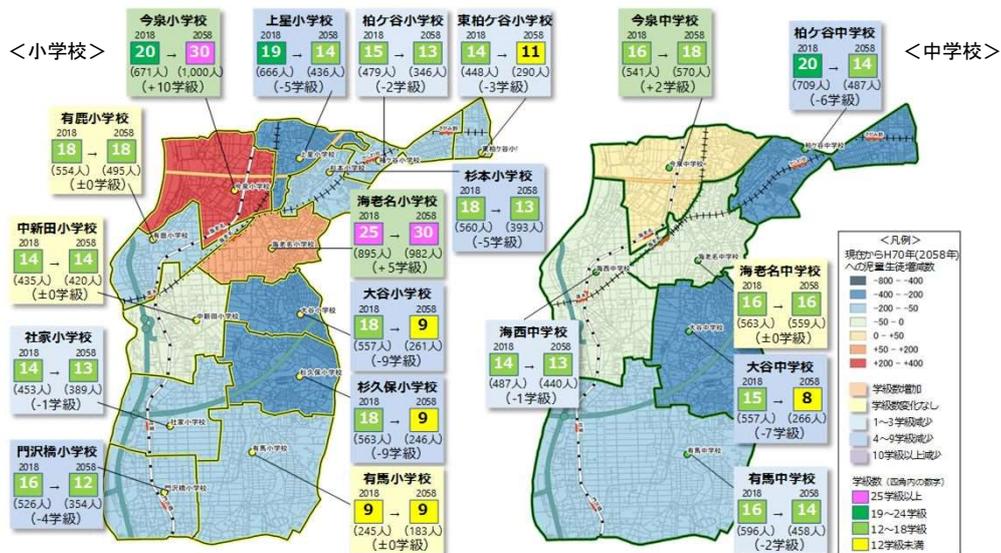
- 1970年代～80年代前半に集中して建設されており、約80%が築30年以上です。

2 財政見通し

- 「海老名市公共施設再編（適正化）計画」では、平成27（2015）年度から平成91（2079）年度までの65年間で、公共施設全体にかかる将来費用の総額は2,334億円（平均35.9億円／年）、不足額が1,200億円に上ると推計しています。
- また、公共施設全体の投資限度額は15億円／年とされていることから、学校施設にかけられる費用は7.4億円／年を目安としています。

3 児童生徒数の推移、将来予測

- 40年後には、ピーク時の54%に減少する見込みです。
- 海老名市の場合、減少する地域と増加する地域があります。



学校施設再整備方針

(1) 持続可能な計画に向けて

1 児童生徒数の増加校と減少校への対応

2 地域コミュニティの拠点施設に向けた、周辺公共施設との複合化・多機能化

3 地域連携による新しい運営のあり方

4 新しい学習形態への対応

5 財政を考慮した持続可能な教育環境の維持・向上

学校施設再整備方針

(2) 夢のある計画に向けて

1 魅力のある学校に向けた取り組み

2 英語教育・ICT教育の充実

3 すべての人に快適な学校

4 地域開放型のランチルーム

5 木の温もりを感じる学校

6 環境負荷の低減

7 子どもたちの願いがかなう学校環境

●今後40年における変化に応じた学校施設的环境向上、児童生徒数の増減への対応等を考慮しながら、「持続可能な計画」と「夢のある計画」から、「学校施設再整備方針」を導き出しました。

(1) 持続可能な計画
に向けての5項目

(2) 夢のある計画
に向けての7項目



今後40年間を見据えた学校施設再整備方針

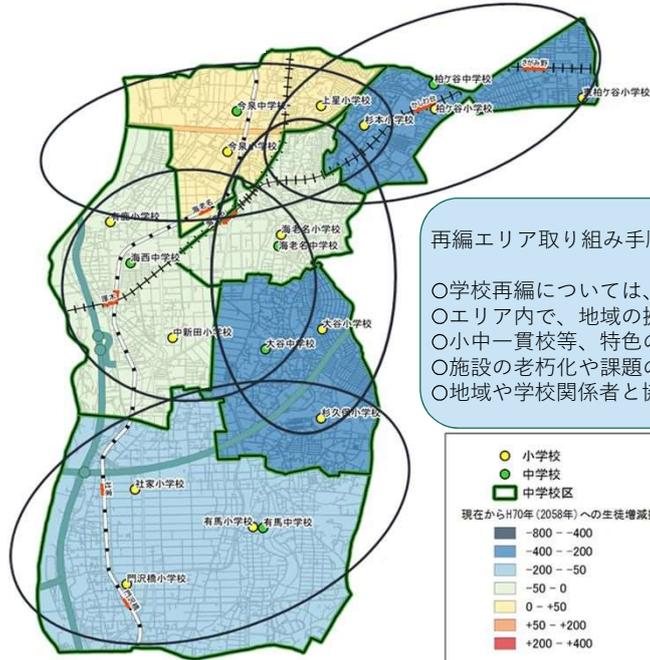
学校施設再整備方針

(3) 整備方針

本計画の進捗状況や社会的要請、ニーズの変化に応じて適宜フォローアップを行い、その結果を踏まえ概ね10年ごとに見直しを行います。

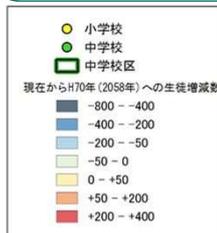
エリア	40年後 児童生徒 増減	10年後	20年後	40年後
柏ヶ谷 エリア	↓	長寿命化改修 外部・内部改修・重点整備 (LED化、木質化、エコ-デザイン化)	施設一体型 小中一貫校	
今泉 エリア	↑	増加対応(増築) 長寿命化改修	新校舎 外部・内部改修・重点整備 (LED化、木質化、エコ-デザイン化)	
海西 エリア	↓		校舎新築による 機能向上 移転 統合	改築時に 減築・複合化
海老名 エリア	→	長寿命化改修		
大谷 エリア	↓	外部・内部改修・重点整備 (LED化、木質化、エコ-デザイン化)		改築時に 減築・複合化 みんなの学校
有馬 エリア	↓		施設一体型 小中一貫校 近隣公共施設との連携	

学区再編や学校規模の適正化については、5年後の予測が、小学校は児童数が概ね300人を、中学校は12クラスを下回る場合、再編エリアを踏まえ検討を始めることとします。



再編エリア取り組み手順

- 学校再編については、原則エリア単位で検討。
- エリア内で、地域の拠点となるような学校を設定。
- 小中一貫校等、特色のある学校を検討。
- 施設の老朽化や課題の大小により、優先順位を決定。
- 地域や学校関係者と協議し、学区の調整等により再編を推進。



短期（10年）計画の目安

○向こう10年間は、児童生徒数の減少が少ないことが想定されることから、市内19校を適切に維持管理しつつ、施設の老朽状況を踏まえた改修を中心に実施します。

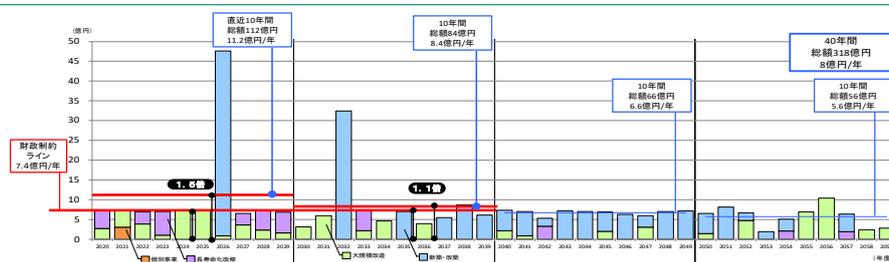
1年目		2年目		3年目		4年目		5年目	
H32 (2020)		H33 (2021)		H34 (2022)		H35 (2023)		H36 (2024)	
施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名
海老名小	校舎長寿命化改修	今泉小	増築	今泉小	校舎長寿命化改修	今泉小	校舎長寿命化改修	海老名小	校舎大規模改修
柏ヶ谷小	屋内運動場大規模改修	海老名小	屋内運動場大規模改修	柏ヶ谷小	校舎大規模改修	大谷小	屋内運動場大規模改修	中新田小	校舎大規模改修
中新田小	屋内運動場大規模改修	有鹿小	校舎大規模改修	門沢橋小	屋内運動場大規模改修			門沢橋小	校舎大規模改修
上星小	屋内運動場大規模改修	有馬小	屋内運動場大規模改修					東柏ヶ谷小	校舎大規模改修
柏ヶ谷中	屋内運動場大規模改修	有馬中	屋内運動場大規模改修					有馬中	校舎大規模改修
合計	8億円	合計	7億円	合計	7億円	合計	7億円	合計	7億円
6年目		7年目		8年目		9年目		10年目	
H37 (2025)		H38 (2026)		H39 (2027)		H40 (2028)		H41 (2029)	
施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名	施設名	棟名
有鹿小	校舎大規模改修	海老名中	校舎新築	柏ヶ谷中	校舎長寿命化改修	今泉中	校舎長寿命化改修	今泉中	校舎長寿命化改修
大谷小	校舎大規模改修	有鹿小	校舎大規模改修	中新田小	校舎大規模改修	柏ヶ谷中	校舎大規模改修	上星小	校舎大規模改修
上星小	校舎大規模改修			柏ヶ谷中	校舎大規模改修				
合計	7億円	合計	48億円	合計	7億円	合計	7億円	合計	7億円

中長期（20年）・超長期（40年）計画の目安

- 「海老名市公共施設再編（適正化）計画」では、学校教育施設の40年間の改築・大規模改修費用を367億円と推計しています。



- 海老名市学校施設再整備計画では、今後40年間の学校施設整備費用は318億円になると推計しています。



東柏ヶ谷小学校児童会から 学校生活に関する提案について

学校生活に関する提案

- ①体育館にエアコンをつけてほしい
- ②近くでプールの授業ができればよい
- ③校庭の東北側にネットをつけてほしい
- ④みんなで楽しめるような遊具があったらよい
- ⑤カドカワや青い鳥文庫など読みたい本がもっと増えてほしい
- ⑥登下校中に地域の方がたくさん見守ってくれているのがよい